

<麦類の栽培ポイント>

今年も麦類の播種時期になりました。湿害対策等の基本技術を徹底し、高品質麦の生産に取り組みましょう。

1 適期播種と生育管理

気象庁の寒候期予報（9月20日発表）によると、播種後（12月～2月）の平均気温は平年並または低い確率とともに40%と予想されています。播種が遅れると、低温のため出芽が遅れ、その後の生育も悪く、出穂や成熟も遅れて減収に繋がります。年内の生育を十分に確保し、高品質麦の安定生産を図るため適期内に播種しましょう。

【播種期間の目安】

小 麦：11月10日～11月20日

二条大麦：11月15日～11月25日

二条裸麦：11月10日～11月15日

※予報が変わる場合がありますので、気象庁の予報等を確認し播種時期を決めましょう。

【小麦の施肥】

近年、小麦はタンパク質含有率が低い傾向が続いています。基準施肥量（窒素成分10kg～12kg/10a）を参考に、令和4年産の成績に応じた施肥設計をしましょう。

①基肥には肥効調整型肥料（BB麦専用麦の香、BBとちぎ麦専用500^注）を施用しましょう。

②オール14やBB-372などの即効性成分のみの基肥を施用した場合は、生育状況に応じて茎立ち期直前か穂揃い期の追肥を検討しましょう。

注）リン、カリの配合割合が低いため、土壌分析をして不足分を土作り肥料で補いましょう。

【二条大麦の施肥】

令和4年産のタンパク質含有率生産者平均は10.8%と適正範囲に入っており、昨年産に比べ改善されました。引き続き適正施肥をお願いします。タンパク質含有率が低いブルーカードの方は、

①基肥でオール14を使用している場合は、肥効調整型肥料（BB麦専用麦の香）に変えましょう。

②肥効調整型肥料（BB麦専用麦の香）を使用してタンパク質含有率が低い場合は、施肥量を窒素成分で1～2kg/10a（0.5袋/10a）程度増肥しましょう。また、タンパク質含有率が高いレッドカードの方は、施肥量を窒素成分で1～2kg/10a（0.5袋/10a）程度減肥しましょう。

注意

麦類は一般的に酸性に弱く、pH5.5以下になると著しく減収します。特に水稻作付後のほ場ではpH5.0～5.5になっている場合があるため、必ず苦土炭カル等を施用して矯正しましょう（目標pH6.5）。標準的な施用量は、苦土炭カル60～100kg/10aです。

2 湿害対策の徹底

麦は播種期・生育期・登熟期の全栽培期間を通して湿害を受けやすい作物です。播種後の降雨により出芽不良となる場合もありますので、十分な対策をしましょう。

湿害の時期	湿害の影響
播種時	出芽不良
生育期	茎数不足、一穂粒数不足
登熟期	粒充実不足

湿害防止のために以下の対策を組み合わせる実施しましょう。

(1) 排水溝（明きょ）の設置

地表の水はけを良くする対策で、播種前・播種直後が最も効果的です。

(2) 稲刈り後のスタブルカルチ等の実施や弾丸暗渠の設置

水が地下に抜けるため、排水の効果が高いです。

（裏面あり）

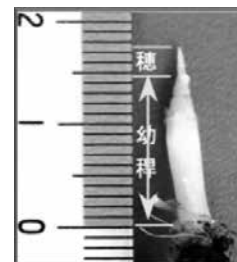


3 麦踏み

年内1～2回、年明け後から茎立ち期直前までに2回程度実施しましょう。
根張りを良くすることや、霜などによる凍上害防止の効果がります。

雨上がり直後や土壌水分が高いときは、圃場を踏み固めてしまい、生育不良を招くので行わないようにしましょう。

幼穂が2 cm位まで踏圧できます →



4 雑草防除

雑草の発生を抑制するため、播種後に除草剤の全面土壌処理を行います。

雑草の種類	除草剤名	使用時期
一年生雑草	ボクサー	播種後～麦2葉期まで 但し、小麦は麦4葉期まで (雑草発生前～雑草発生始期)
	リベレーターフロアブル	播種後～麦3葉期まで (雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで)
	リベレーターG	播種後～麦2葉期まで (雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで)
	ムギレンジャー乳剤	播種後～出芽前 (雑草発生前)
	クリアターン乳剤・細粒剤F	播種直後 (雑草発生前)
一年生雑草 (ツリガナ科、ガクツリガナ科、ササ科、アザミ科を除く)	トレファノサイド乳剤	播種後～出芽前 (雑草発生前) または、 生育期 (雑草発生前) 但し、収穫45日前まで

※令和4年10月11日現在の登録内容

※ボクサー・リベレーターフロアブル・リベレーターG・ムギレンジャー乳剤は抵抗性スズメノテッポウに効果を発揮します。

※抵抗性雑草の発生を回避するため、土壌処理剤はローテーションで使用しましょう。

※除草剤（農薬）を使用する時は、ラベルの表示を確認して正しく使用してください。

5 種子消毒の実施

大麦斑葉病やなまぐさ黒穂病といった種子伝染性病害が増加傾向にあります。

発病後の薬剤による防除は困難です。種子消毒で予防し、健全な麦の生産に努めましょう。

麦類種子消毒剤の主な適用一覧（令和4年10月11日現在の登録内容）

農薬名	対象作物	登録内容	使用方法
ベンレートTコート	大麦、小麦	斑葉病、なまぐさ黒穂病	種子粉衣
ベンレートT水和剤20	麦類(小麦を除く)	斑葉病、なまぐさ黒穂病	10～20分間種子浸漬又は 種子吹き付け処理、種子粉衣
	小麦		
ホーマイ水和剤	麦類(小麦を除く)	斑葉病、なまぐさ黒穂病	種子粉衣又は6～24時間種子浸漬
	小麦		
ベフラン液剤25	麦類(小麦を除く)	斑葉病、なまぐさ黒穂病	種子吹き付け処理又は塗沫処理、 10～30分間種子浸漬
	小麦	なまぐさ黒穂病	

※種子消毒の効果は、浸漬処理＞湿粉衣処理＞乾粉衣処理 の順で効果が高いとされています。

※機械播きには種子粉衣または、短時間浸漬で処理します。

※農薬を使用する時は、ラベルの表示を確認して正しく使用してください。